



The Lion Times

ザ・ライオンタイムズ

地区スローガン
「心豊かに 誇りをもてるライオンズ」

地区ガバナーテーマ
「栄光へ！」

(地区ガバナー 有村純徳)

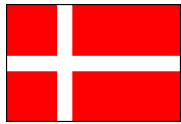
2014.9 第3号 Vol.3

ライオンズ国際協会 337-D 地区ガバナー

【 =ライオンズの誓い= われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する 】



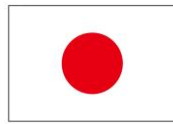
(Belgium)



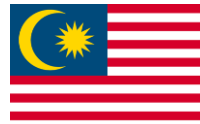
(Denmark)



(Germany)



(Japan)



(Malaysia)



(Singapore)



(Taiwan)



(DISTRICT308/マレーシアでのユースキャンプ集合写真)

Youth Camps & Exchange

■ライオンズクラブ青少年交換&国際ユースキャンプ (2006年10月より一体化)

1962年、ライオンズクラブ国際協会の国際理事会は、ライオニズムの第一目的にそって、青少年交換の実施を決定しました。それは前年実施された、日本の神戸と米国カリフォルニア州、ネバダ州との夏期青少年交換に端を発しております。

このプログラムは青少年に外国の家庭を解放し、お客様ではなく、家族の一員として生活を体験することによって、その国の生活文化を学び、また自分の国の文化を紹介する機会を与えています。また、国際ユース・キャンプにおいては、いろいろな国の青少年と数週間、生活を共にする期間を含んでいます。

毎年度、地区ホームページに夏・冬派遣の応募要項 (参加申込み含む) 掲載。



今回、私はYCE派遣生として台湾へ行かせて頂きました。8月4日から8月24日の20日間でした。他人の家に20日間もお世話になる、そして外国へは旅行ではいったことがありますが長期間過ごすというのはどちらも初めての経験で、出国前は楽しみもありましたがやはり不安と緊張もありました。しかし実際にホームステイが始まると台湾の方々の優しさ、話では聞いていましたが想像以上の親日さに救われました。とにかく本当に、台湾人の方々は日本のことを大好きでいてくれて出会う人皆さんがフレンドリーに話しかけてくれてとても嬉しかったのを覚えています。

私はキャンプを間に挟む、前半の7日間、後半の10日間のどちらのホストファミリーも台北市でした。

前半の7日間は、19歳の女の子がホストシスターでした。台湾の私達と同世代の子たちは母語は中国語、台湾語ですが、英語も小学校へ上がる前から教育を受けるそうで、とても流暢な英語を話せます。それに加え、高校 大学からは専攻の勉強とは別に日本語も各自で勉強するそうです。とても語学に対して熱心なんだなと感じました。そして、小さい頃からの本格的な英語教育は日本の学習制度にはないので同時にとても羨ましく感じました。

ファーストホストファミリーと過ごした7日間では、まず最初の3日間はホストシスターとその友達何人かとずっといろんなところを観光しました。台北市は交通機関も発達していて街並みも福岡より都会でした。いろんなところへ観光した中で特に感動したことを述べます。まず、台湾といえば夜市というナイトマーケットが生活の中に当たり前であり、各地でそれぞれ夜市が開かれているのですが、私はその中でも士林夜市に行きました。夜市では食べ物から衣服まで幅広いものが売っていて、少し日本の夏のお祭りの屋台が並んでいる感じに似ています。夜市は毎日あるそうで、人も賑わっていて日本人の私からするとお祭りが一年中毎日開かれていると考えると不思議な感覚でした。夜市では台湾ではポピュラーな食べ物をいくつか食べました。台湾で一番美味しくて驚いたものがフルーツです。特にマンゴーは日本では食べたことのない美味しさでした！

そして私が台湾で一番きたかったところである、九へも行きました。九はジブリのアニメ「千と千尋の神隠し」を作る際に宮崎駿監督がモデルにした場所です。日本人も台湾へ来たらよく行く観光スポットです。細い路地に、家々が段々と入り組んだ空間は不思議な雰囲気です。私はとても大好きな場所になりました。台湾といえばお寺がたくさんあるのですがそこには赤提灯がたくさん飾られていて夜になるとライトアップされてとても綺麗です。九もこの赤提灯が街並みにたくさん飾られて、そこで入ったお店で台湾のお茶を飲み、とてもいい思い出になりました。そして台北101という、高いビルにも登りました。日本でいうスカイツリーです。エレベーターの登る速さが世界最速ということであつというまに頂上までつきました。台北101のビルには、台湾で有名な小籠包のお店である鼎泰豊(ディンタイフォン)で食事をしました。ここは日本人もよく行く観光スポットです。ここで食べた小籠包は今まで食べた中で一番美味しかったです。4日目からは二泊三日で、キャンプが台南という場所にあるのでそこへ向かって南下しながらホストファミリーと旅行をしました。やはり台北と違って、南へ行くほど自然がたくさんでした。行く所々でその土地の有名な食べ物を食べながら観光しました。私はセカンドファミリーも台北だったので台湾の全てを回れてとても良い経験になりました。人生初めてのスキューバダイビングもしました。ファーストホストファミリーと過ごした一週間もあつというまに終わり、日本人と台湾人とのキャンプに向かうためにお別れをしました。本当にみんな明るくて優しく毎日が楽しかったのでとてもお別れはさみしかったです。

キャンプは3泊4日で、台湾の最南端の場所に行ったり、海でシーカヤックしたり、ホテルの近くの夜市に行ったり、自然と触れ合えました。最終日は水族館に泊まりました。水族館の裏側を見学して、貴重な体験になりました。

キャンプが終了してからセカンドファミリーと対面をしました。セカンドファミリーは、台湾の古い街並みが残っている所や蒋介石の住んでいた家、お寺など歴史深い所へ連れて行ってくれました。故宮博物院という日本人も良く行く観光スポットで中国と台湾の古い歴史の物を見たり、台北動物園に行き人生初めてのパンダを見たりしました。

そして私はホームステイ中に誕生日を迎えたのですが、ファーストとセカンドファミリーのシスターとブラザーが合同で誕生日のお祝いの計画を立ててくれていて、その友達たちも来てくれて大勢で誕生日をサプライズでお祝いしてくれました。プレゼント、手紙、手作りのケーキも作ってきてくれて本当に台湾の人たちは暖かいなと感じました。

もうひとつ台湾へ行って感じたことは、台湾の方々は必ずどんなときも「謝謝」とお礼を言います。当たり前のことのようですが、お店で注文をして料理を持ってきたとき、何かを買った時日本ではお礼を言うのは店員さんだけのことが多いと思います。もちろん日本人も言う人は多いと思いますが、台湾では必ず皆がお礼を言い、見習わなければならない文化だと感じました。

また日本語が話せない環境で相手とのコミュニケーションをとることはとても難しかったし、自分の英語力不足も痛感しました。

私の将来の夢は語学とは違う道ですが、専攻している勉強とは別に英語の勉強をしようと思いました。またもう一度ホストファミリーと会えたときに伝えたい気持ちを思うように伝えたいからです。そして将来、薬局か病院に勤めたときに外国人の患者さんが来られたときに英語でのコミュニケーションをとれるようにならなければいけないと気づかされました。

今回は本当に私の人生において伝えきれないくらい大切な経験となりました。

鹿児島南洲ライオンズクラブの皆様、オリエンテーションを引き受けてくださった福岡のライオンズクラブの皆様、ホストファミリーの方々、両親と祖母へ、本当に感謝しています。ありがとうございました。

派遣国 (マレーシア)

YCE派遣学生 片山 未 樹 (F16)
(スポンサーC/鹿児島さつまLC)

— もう一つの故郷 —

私は、この夏YCE派遣学生として、マレーシアに7月18日から8月14日まで行って来ました。今年鹿児島からの派遣学生は私一人だけの参加となり、正直とても不安でした。ですが、現地に着いた時ホストファミリーがとても親切にしてくれたので不安もすぐ無くなり楽しく過ごせるかなと思いました。

事情があり、私は三家族まわりました。マレーシアは多民族国家で、マレー系、中国系、インド系の三つに分かれていましたが、私のホストファミリーは中国系の方々でした。最初はクアラルンプールというマレーシアの首都で過ごしました。次にスガマトで過ごし、最後にまた、クアラルンプールに戻りました。

まず、クアラルンプールで一緒に過ごしたホストファミリーは、ファザーとマザーが忙しくほとんど一緒にいることができませんでした。その代わり双子のホストシスターと妹と沢山の思い出を作ることが出来ました。一緒に買い物に行ったり、日本食を食べたり、またスポーツが好きな私に対しジャンポリンに連れて行ってくれました。マレーシアは果物が盛んで絞ったジュースがとてもおいしかったです。私のホストファミリーは1日3食に加えて軽食が何回もあり、軽食はほとんど果物やデザートでした。

次に行ったスガマトは同じYCE派遣生と約1時間電車に乗って行きました。マレーシアはとても暑く日本ではあまり考えられないような暑さがずっと続いていましたが、スガマトはクアラルンプールより南のほうにありとても暑かったです。電車から降りた瞬間目が焼けるかと思いました。

スガマトでは事情があり、長崎の子と二人で同じホストファミリーの家に泊まり、過ごしました。スガマトでいろいろなことをしました。ホストシスターと買い物に行ったり映画を見たり、マラッカに連れて行ってもらったり、ビーチに行ったり、バトミントンをしたりといろんなところに連れて行ってもらいました。

また、いい体験もしました。大学に行き日本語を学んでいる生徒たちとふれあい、お互いに日本語で自己紹介をしたり、Facebookなどの連絡先交換をして楽しい時間を過ごし、今でも親交を深めています。

高校にも行きました。授業は時間の関係で受けることは出来ませんでした。授業が始まる前までみんなで写真を撮ったり話したりして、とても楽しかったです。その他に、ライオンズクラブの例会にドレスを着て参加したりし、ここでは関西地方の派遣学生と会いました。また、貧しい地域にライオンズクラブから食べ物などを贈ったりするプロジェクトに参加させてもらったりと本当にいい経験が出来たと思っています。

最後にクアラルンプールに戻りました。ここでは最後の家族のホストファミリーと会いました。次の日からはキャンプでした。いろいろな国から派遣生がたくさん来て、英語でコミュニケーションし、グループで与えられた課題をやったりといい思い出を作ることができました。キャンプが終わり、ホストファミリーと夜市に行ったり、klccに行ったりツインタワーに行ったりしました。マレーシアに慣れて、毎日が楽しくなって来た頃にホストファミリー達との別れの時が来ました。空港まで送ってくれて出発前まで写真もいっぱい撮っていっぱい話して泣いて別れをしました。約1ヶ月マレーシアで過ごし英語がうまくできない自分に悔しさを覚えて、何度も日本に帰りたと思った時もありました。ですが、別れが近づくにつれて本当にマレーシアにずっと居たいって心の底から思いました。大人になって絶対にマレーシアに行くって決めました。

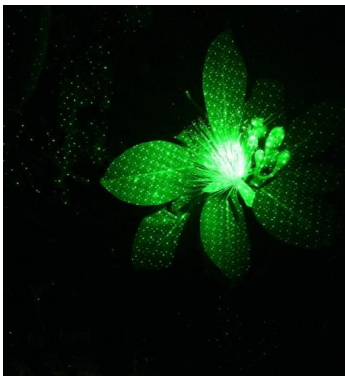
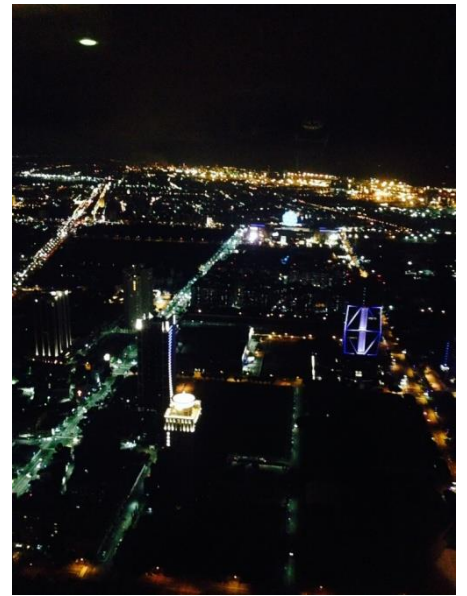
最後になりましたが、派遣して下さいだった鹿児島さつまライオンズクラブの方々、ホストファミリーの方々、そして私に関わって下さった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



私は、YCE派遣生として3週間台湾へホームステイしました。私は今まで海外へ行ったことがなく、今回が初めての経験となりました。台湾へ行く前、私は、台湾は日本と似ている国だと聞いていました。しかし、いざ現地へ行ってみると驚きの連続でした。まず最初に驚いたことは、車線の多さです。片側5車線の道路を見た時は、私は無事に家へ辿り着けるか心配でした。しかしその道に慣れたころに帰ることになったので少し寂しかったです。次に驚いたことは、食事です。台湾では、中華料理が多く一つのお皿をみんなですべてつづいて食事をしていました。最初はためらいがありましたが、ホストファミリーの方が取り箸を添えてくれたので安心して食べることが出来ました。私の日本の家庭では、食事は個人個人で分けて出っていたので大変驚きました。しかし、みんなでするそのような食事はいいなと思いました。

私は、台湾での移動手段に原付バイクが多くの台湾人に利用されていることに最初はとまどいました。私も原付バイクの後ろに乗ることがあり、最初の四日間は足の筋肉痛で痛かったです。しかし、何回も乗るうちにそれも慣れていきました。私のホームステイ先は、高雄だったのですが。そこは、私の故郷よりも人が多く、高いビルも多く、とても都会ですごいなと思いました。特に、高雄85大楼へ行く機会があり、そこから見る夜景の美しさを忘れることが出来ません。自分が高雄にいたことが今でも信じられないです。

このホームステイの期間、私は習慣の違いに戸惑ったことがあります。まず、ご飯とお汁を混ぜたらいけないことです。私は、何も知らずにしていて恥ずかしかったです。また、私は日本語が通じない状況になったことが今までなかったことがありませんでした。しかし、現地の人たちは笑顔で片言の日本語でお話してくれたり、翻訳機を使い説明してくれたりと気遣っていただき大変ありがたかったです。キャンプでは、水族館に一泊して大きな水槽の前で寝ました。また、雨の中みんなですぶ濡れになりながらカヌー体験をしたのも良い思い出です。そのキャンプでは、色染め体験や昔ながらで作った塩の作業工程を見るなどしました。海水を運んで手間をかけて作る作業に感動しました。私は、小琉球という島にも行く機会がありました。その島は、船酔いの激しい船でしか行く手段がなく、私は人生で初めて乗り物酔いを経験しました。しかし、その島は自然が最高に綺麗で苦労して行った甲斐があるなと感じました。特に、それを感じたのは不可思議な花との出会いです。その花は、日本にはないような大きな花のサイズで、懐中電灯をかざすと緑色に光る花です。この花を見た時、ここに来て本当に良かったと思いました。ホームステイが新しい人との出会いと、新しい私の価値観が生まれ、私の英会話のスピードが行く前よりも早くなり、度胸も少しはつきました。全てライオンズクラブのおかげだと思います。ありがとうございました。今回の経験を機会に、自分でも海外に挑戦していきたいです。



私は8月3日から25日までの約3週間ドイツにホームステイしました。海外に行くのは初めてだったため不安もありましたが、それ以上に楽しみの方が大きかったです。そして出発当日、ワクワクしながら日本を出発しました。13時間のフライトを経てフランクフルトに着くと、周りの様子が日本とは全然違って外国に来た実感がすごく湧いてきました。しかし、ここでハプニングが起きました。私はフランクフルト経由でデュッセルドルフに向かう予定だったため、次の飛行機の搭乗ゲートで待機していました。しかし時間になってもゲートが開かず、私はパニックになってしまいました。周りの人たちもざわつき始めて、みんなカウンターに並んだので私も並び、受付の人から「予定していた飛行機が悪天候のため引き返してしまったので電車で向かってください」と言われました。また、荷物もどこにあるのか分からず、近くのスタッフに「I lost baggage」と伝え、探してもらいました。出国前のオリエンテーションで荷物を紛失した時の対処を習っていたのですぐに見つけることができました。そして電車で向かい、無事にデュッセルドルフでホストファミリーと合流することができました。



最初のホストファミリーは4人家族で子供が2人でしたが、年が近かったためすぐに仲良くなることができました。また私のために家族全員がドイツ語ではなく英語で会話をしてくれていて、すごく優しい家族だと感じました。でも、私は会話の内容は理解できましたがとっさに英語で返すことができず、簡単な文章でしか話ができませんでした。それがすごくもどかしく、悔しかったです。それでもホストファミリーはゆっくりと話してくれて、ちゃんと聞いてくれていたので焦ることなく話すことができました。

また、ホストファミリーは毎日いろいろな場所に連れて行ってくれました。私は教会や古い町並みなどに興味があると伝えたので教会や大聖堂、古いお城などに連れて行ってくれました。その中でも一番印象的だったのはケルン大聖堂です。私はホームステイに行く前にドイツについて調べている時にケルン大聖堂の写真なども見ていましたが、写真からのイメージとは比べ物にならないほど大きく、すごく感動しました。日本にも高い建物はありますが、ケルン大聖堂は高いのに加えて敷地面積も広く、存在感がすごかったです。また、大聖堂の中で生のパイプオルガンの演奏をしていました。私は始めて生で聴きましたが、大聖堂中に響いていてとても迫力のある演奏でした。

日本との違いで一番驚いたのは食文化です。私のヨーロッパのイメージではパンやスープ、ピザ、パスタなどを主に食べていると思っていましたが、実際は日本のように温かい食べ物はあまりなく、パンとハム、ベーコン、チーズなどをサンドイッチにして食べるのが普通の食事でした。ピザやパスタなどはレストランなどでしか食べないと言っていました。最初は冷たい食事に少し抵抗がありましたが、パンにはさむ肉やチーズの種類がとても多く、いろいろな味が楽しめてすごく美味しかったです。また、デュッセルドルフはドイツの中で日本人が一番多い街らしく、日本食専門のお店や日本人学校などもありました。そのため街を歩いてもたまに日本語が聞こえてきたりして、少し変な感覚でした。

二番目のホスト先はフランスとの国境近くにあるアイヒシュテッテンでした。ホストファミリーはワイン農家を営んでいて、一日はワイン造りを体験させてくれました。まず朝にぶどうを大きなバケツに採ってきて、昼に収穫したぶどうを搾って濾過し、瓶詰めして倉庫に運びました。そこで2~3年発酵させてから出荷されると言っていました。いつも飲んでいるワインがこのようにして出来ているというのを実際に体験できて、とても楽しかったです。また、遊園地にも連れて行ってくれました。そこで面白かったのはEU加盟国ごとにエリアが分けられていて、その国の特色を生かしたアトラクションがありました。その帰りに少しフランスを通って帰りましたが、国境らしきものがなにもなく、道路を走っている途中に「この先フランス」の看板があるだけでした。私の国境のイメージはフェンスや壁があって警備員がいると思っていたのでそれがすごく驚きでした。

今回のホームステイは最初に大きなハプニングに遭いましたが、そのおかげでちょっとしたことでは不安になることなく、落ち着いて考えることができました。また、ホストファミリーの方々もすごく優しくしてくれて、毎日とても楽しかったです。今回のホームステイを通して、世界共通語である英語の大切さを実感し、今後しっかり話せるようになりたいと思いました。また、三週間しか滞在していませんが、ドイツは日本と似ているところもあれば全然違うところもたくさんあってすごく興味がわいたので、機会があれば是非他の街にも行ってみたいと思いました。

最後にライオンズクラブの皆様、今回はこのような素晴らしい経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。この経験を自分の将来に生かしていこうと思います。



派遣国 (マレーシア)

ーマレーシアホームステイを通してー

YCE派遣学生 玉城 妃奈乃(F17)
(スポンサーC/沖縄LC)

今回マレーシアに行き、いろいろな事を体験しました。学校に行き授業に参加したり、植物を観察したり、フルーツを食べたり、おいしい食べ物をいただいたり、とても楽しい経験をさせていただきました。

マレーシアは3つの宗教があり、マレー・中国・

インドに分かれています。それぞれの文化が違う中で過ごしていました。学校でも3か国語で話し、生徒達はそれを聞き分けてすごいと思いました。私は英語の授業に参加し自己紹介をしました。生徒の質問も受けて答えました。

マレーシアは、日本語を話せる人がたくさんいて会話が弾みました。

マレーシア文化には新年が4回あります。夜になると花火や爆竹をたくさん打ち上げ、音をならします。理由は魔除けだそうです。その音はとても大きく夜中、町に響き渡っていました。なかでも驚いたことは、新年を迎える1か月前は断食があり、飲み物・食べ物を日が昇り沈むまで口に含んではいけないということを知りました。学校の生徒・職員、マレー人生徒は何も口に含みませんでした。

私が最初にお世話になった家庭は、同じ年の子がいて学校に連れて行ってもらい、カンフーを習いました。また、行った学校では沖縄の伝統芸能三味線をみなさんの前で披露しました。みんな、興味を持ってくれて嬉しかったです。マレーシアのフルーツで一番の王様はドリアンです。これを食べなさいと言われて一緒にいた日本人はみんな食べられません。においがとても独特でドリアンを食べた現地の人は一日中においが落ちないと聞きました。

マレーシアでは家の警備がすごかったです。警備員が24時間体制で見張っていました。日本では、鞆を置いてトイレに行くことや携帯・財布をポケットに入れて歩く人が多いですが、マレーシアでは一人もいませんでした。車もロックしないと危ないと聞きました。

また、コンビニやフード店にトイレットペーパーがないのは一番驚きました。日本では当たり前なのが外国に出てみると当たり前でないことに気づきました。水道水が飲めることや学校で給食があること、当たり前と思っていました。

8月の最初にキャンプがありました。色々な国から集まり交流し、マレーシアの文化にふれたり、自分の国の紹介をしました。すべてが英語で、自分の英語の喋れなさが恥ずかしかったです。それでも、スポーツやグループ活動を通して仲良くなることができ良かったです。キャンプの最終日には、民族衣装を着てコンテストに参加し、私はマレー人の衣装マジュクロンを着て2位になりました。良かったです。マジュクロンは、全身を隠します。マレー人は肌の露出が禁止だそうです。たくさんの人に支えられてマレーシアでは病気もせず生活ができました。

ホストファミリーやライオンズクラブの皆様にとっても感謝しています。

日本から離れることにより日本は良いところだなあと気づくことが多かったです。また、いろんな文化・宗教があると実感しました。私はこの機会を通して日本の良さをもっともっとたくさんの国に知ってほしいと思いました。

マレーシアに行くことができ、自分自身成長することができました。これからの社会は英語がないとやっていけないということに気づきました。派遣生としてマレーシアに行くことができ感謝します。

今回はこのような機会を与えて下さりほんとうにありがとうございます。また、沖縄ライオンズクラブの皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

Terima kasih ~ Thank You ~ ありがとうございます。





僕は7月19日～8月17日までの約1ヶ月間、東マレーシアとシンガポールにホームステイしました。僕が行った家庭はマレーシアで4カ所、シンガポールで1カ所というとてもたくさんの家庭でお世話になりました。ボルネオ島の総面積は、日本の国土面積の2倍の大きさなので、それぞれのホームステイ先への移動は飛行機を利用しての移動でした。

マレーシアの各家庭では話している言葉が違うのに驚きました。マレー語、中国語、英語と、同じ国なのに様々な文化が入り交じっていると感じました。最初はとても話すスピードが速く、訛りがあって聞き取りにくく不安になりましたが、話している内にだんだんと慣れ、別れるまでには会話も出来るようになりました。

マレーシアでは、最初にミリのホストファミリーにお世話になりました。僕と同じ年の男の子がいて学校のことや、好きなアーティストの話をしたりしました。家族同士では、マレー語を話していましたが、僕と話すときは英語でした。これまでの帰国報告書にもあったように、食事は、朝から外食という日もありました。骨付きの肉の骨は、テーブルの上に置いていました。Y Eのメンバーと、ニア国立公園という所に行きました。そこは昔の先住民が住んでいたという所で、洞窟の上にあるゴウモリの卵を棒を上って卵を取ったという、生活様式の一部を見ることが出来ました。映画も見に行きましたが、映画館の中は日本とそう変わりはありませんでした。英語の映画でしたが吹き替えなどされていなく字幕が中国語だったので驚きました。ミリではY Eのメンバーとの行動が多かったのですが、いつもメンバーの中のホストファミリーが案内してくださり、とても親切にしてもらい感謝しています。

次のステイ先シブのホストファミリーは、中国語を話す家庭でした。僕より年上の2人のお兄さんと一緒に部屋で過ごさせていただきました。和やかな雰囲気の中でよくおしゃべりをしました。残念ながら、中国語の「謝謝」という言葉しか使うことが出来ず、もっと教えてもらえば良かったなあと後悔しています。そこはクリスチャンだったので、教会へ行く機会がありました。毎週日曜日の朝は行っているそうです。静かな雰囲気の中で、賛美歌を歌い、祈りを捧げるという崇高な経験をする事が出来ました。僕の住んでいる地域にも教会はあるのですが、一度も教会の中に入ったことがないので、教会に行けたのはとても興味深かったです。それから、ロングハウスという横に長い住居にも行きました。高床式の木造建築でした。居住者のライフスタイルの変化と、家族メンバーの増員などに対応できる増築システムがあることがマレー住宅の特徴だそうです。ここでは、食器で作られた楽器や伝統的なダンスを見ることが出来ました。3カ所目のコタキナバルのホストファミリーは英語を話す家庭でした。ミリのホストファミリーから、コタキナバルの海はとても綺麗だと聞いていました。話に聞いていたとおり、実際に見ると沖縄の海と同じようにエメラルドグリーンで、透き通っていてすごく綺麗でした。泳ぐ機会がなく、次に行く機会があれば、泳いでみたいと思いました。ホストファミリーの家の近くに寺院があり、大きな屋根のある広場があったり、元は風呂場だった所もあり、日本の銭湯と同じようなイメージを受けました。

他の寺院巡りもしましたが、日本の寺のつくりと違い建物全体は吹き抜けて広々とした作りでした。ワニをメインにした動物園へも行き、ワニのショーを見せてもらいました。どう猛なイメージのあるワニの上に人が乗っていたので、ワニも調教出来るのだなと思いました。5日間お世話になりましたが、残念ながらコタキナバルでは体調を崩してしまい、近くの病院で診察を受けるという貴重な体験もしました。4カ所目のホストファミリーもコタキナバルでした。会話は英語でしてくれました。ここでもY Eのメンバーと行動しました。少し冷たいと感じる川で泳いだり、山にもものぼったりして、眼下に雲を見るという、山も川もない宮古島で過ごす僕にとっては、なかなかない貴重な体験でした。5つ目のシンガポールでは、3世代と一緒に住んでいる中国系のホストファミリー宅でした。8月9日は独立記念日で、街灯にはバナーが飾られ街中がお祝いムードにあふれていました。独立記念パーティーにも行くことができました。夜になると式典をしている場所の近くから花火をみることが出来ました。独立記念日にその場所にいたということは、今後またとない瞬間ではないかなと思いました。

さらに、初めてユニバーサルスタジオシンガポールに行ったり、観光地で有名なマライオンのある場所へも行き、間近で見ることが出来ました。一緒に行ったY Eのメンバーや、ホストシスターと一緒に楽しく過ごすことができました。

レオクラブとの交流会は行く先々であり、たくさんの方々とお話する機会がありました。交流会では浴衣での参加だったので、衣装は違いますが、琉球舞踊を踊らせていただき沖縄の文化を少しですが、伝えることが出来たと思います。

ホストファミリーの方々は、とてもやさしく接してくださり、気軽に話すことができました。マレーシアの人達はこまめに食事をとるようで、多いときに4～5回というように本当に沢山食べました。食事は食べられないと言うことはありませんでしたが、肉料理や麺が多いと感じました。さらに、外食がほとんどでお家で食べたことがあまりなく、家事のなかに料理はないのかなと思いました。

シンガポールはすごく発展した場所で、近代的な建物が多く、カーブのあるエスカレーターもあり、学ぶことが沢山ありました。YCEの事業に参加したことで、多くの人達と交流をする機会に恵まれ、交流を通して文化の違いや考え方、話す言語など色々と学ぶことができ、充実した1ヶ月でした。1ヶ月間の交流を通して学んだことをこれからの生活にも活かしていきたいとおもいます。

このような素晴らしい機会を与えてくださったライオンズクラブの皆様、本当に有難うございました。

鹿児島 R.アクティビティ(活動)報告

(ライオンズクラブは、地域社会への身近な奉仕活動と国際的奉仕活動を行っています。)

【鹿児島 R. 5 Z / 串木野 LC】

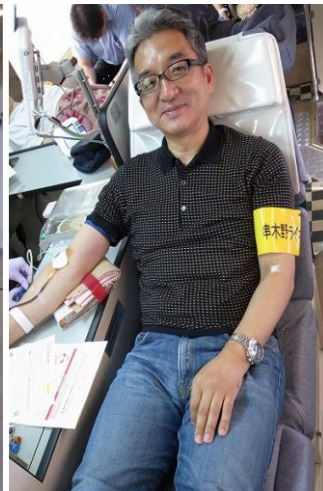
EM菌活用団子の作製 神菌自動車工場跡地 参加者 (24名)

環境保全を目的として10月の世界ライオンズ奉仕デーに、いちき串木野市内の河川にEM団子を投入する計画である。そのためのEM団子作りを会員24名の参加で実施した。(9月4日)



(土とボカシを秤にかけて袋に詰めていきます。)(毎年恒例のACTになり会員も手慣れてきました。)(このまま一ヶ月乾燥させていきます。)

ライオンズ献血 いちき串木野市民文化センター 参加者 (43名)



「あなたが救う
尊い命・愛の献血」
をテーマに第24
回ライオンズ献血
を実施した。会員
を午前の部と午後
の部の担当に分
け、会場設営、駐
車場整理、受付を
行った。

※受付数 131名
※採血数 117名

(9月11日)

(粗品の卵の準備。感謝のシールを貼っていきます。=受付での作業。=)

(勿論会員も献血をします。)

【鹿児島 R. 5 Z / 川内なでしこ LC】

ペットボトルキャップ搬入 参加者 (2名)



(誠建設へ搬入。19,565個 (45.5kg) 20.3人分のポリオワクチンになる。)

タオル帽子作成 参加者 (16名)



(タオル帽子が10枚揃うとメッセージを添えて鹿児島市立病院へ送ります。たくさんの方々から喜びの声が届きます。)

(9月4日)

(9月25日)

【■沖縄 R. 3 Z / 沖縄 LC】

福祉バザーへ商品提供 愛隣園(与那原町) 参加者(L.14名/外58名)

毎年行われる児童養護施設愛隣園福祉のバザーへ会員から寄せられた商品を提供し、施設の運営に役立ててもらっている。(9月8日)



ゆりの球根植付 糸満市平和記念公園 参加者(L.9名/外4名)

糸満市平和記念公園に沖永良部 LC から寄贈していただいたゆりの球根を会員と会員の会社関係の方々と一緒に植えた。(9月20日)



2014~2015年度 地区ガバナー公式訪問 (沖縄 R)

District Governor's Official Visit

■8月鹿児島をスタートしたガバナー公式訪問は、9月に入り沖縄へ。3日、沖縄 R. 1Z (コザ LC 名護 LC, 石川 LC, 恩納 LC, 北谷 LC / 5 LC) 訪問。4日、2Z (沖縄キーストン LC, 宜野湾・普天間 LC, 浦添 LC, 嘉手納・読谷 LC, 西原 LC, 浦添てだこ LC, 浦添ウエスト LC / 7 LC) 訪問。

5日、3Z (沖縄 LC, 八重山 LC, 宮古 LC, 那覇中央 LC, 那覇北 LC, 那覇守礼 LC, 那覇南 LC 沖縄リパティ LC, 豊見城 LC, 糸満白銀 LC / 10 LC) を最後に、地区内80クラブの訪問全てを終了した。各クラブが運営に対する独自の見解を持ち、抱える問題点など忌憚のない意見交換ができたことで今後の地区運営に役立てて参りたいと思います。また、ご承知の沖縄 R.公式訪問の最終日、安堵の中で急逝したキャビネット幹事、故 L.島津拓夫の沖縄での心温まる送りにはリジョン内地区役員並びに各クラブ会長始め関係者含む会員の皆様にご参列いただきましたこと誠にありがたく、この場をお借りして厚くお礼と感謝を申し上げます。(地区ガバナー 有村純徳)

